

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

競馬サークルの最前線に立つ馬や人を紹介するこのコラム。北米で今、まさに「時の人」となっているマリア・ボレル(32歳)が、今月の主役である。

10月30日と31日の両日、ケンタッキー州のキーンランドで行われた第32回ブリーダーズC。戦前の話題は、ここがラストランとなる3冠馬アメリカンフェイロー(牡3)がほぼ独り占めにしていたと言つても過言ではなかつた中、各国から集まつたメディアの、ことに男性たちが熱い視線を送つたのが、G1BCスプリントに最有力馬として出走を予定していたサンハッピー(牡3)の管理調教師マリア・ボレルだつた。

BCの本命馬を送り出したのが、管理頭数わずか3頭という小厩舎といふだけで、充分にメディアの好奇心をくすぐるシチュエーションだつたが、当人が32歳のスレンダーな美人で、なおかつ、彼女の背中にはサンデーサイレンスを模したタトゥーがあるとなれば、メディアが放つておかないのも当然だつた。

海外から集まつた報道陣に、ボレル師に関する予備知識のある者は皆無だつたが、それも無理はなかつた。今年8月にランハッピーでG1キングスビショップSを勝つまで、彼女は北米でもほとんど無名の存在だったのである。子供の頃から乗馬に慣れ親しんだ彼女は、ベルモントパーク

で攻め馬手の仕事を得たのをきっかけに競馬の世界に参入。サラトガの厩舎、オカラの育成場、ケンタッキーの診療所など、キャリアアップのチャンスがあるたびに場所を移しつゝ、経験を積み人脈を広めしてきた。調教師免許を得たのは08年だつたが、有力なクライアントとの巡り会いがあつたわけではなく、今年の夏まで調教師としての実績はほぼゼロと言つてよかつた。そんな彼女にランハッピーをやってみないかと声を掛けたのは、馬主のジム・マッキングウェイル氏だつた。ヒューストンを拠点とする「ギャラリー・ファーニチャーリー」の経営が本業だが、ニック・ジートやボブ・バファートといった大御所にも馬を預ける一方で、出向いた厩舎で雇われていた警備員が大層な馬好きと知ると、「免許を取つて調教師になれ、君に1頭預けるから」と言い、実際にそうしたことがあるという、いささか変わつた行動をとることでも知られた馬主だつた。

実弟がギャラリー・ファーニチャーリーの従業員ローラ・ウォーラースさんと結婚し、義理の妹になつたローラさんが長い乗馬歴を誇ることを知ると、「君の目で選んだ馬を1頭買つてくれ」と言つて13年のG1キンランド・セプテンバー・セールに送り出し、20万ドルで購買したのがランハッピーだ。のみならず、ローラさんに調教師免許をさせ、ウォーラース厩舎所属馬と

なつたランハッピーは、2歳12月にターフウェイパークのメイドンで見事にデビュー勝ちを果たした。ところが、次走のG3ルコントSで9着に敗れると、マッкиングウェイル氏は転厩を決断。「馬本位に考えてくれること、ラシックスなど薬物は一切使わないことを条件に探したところ、白羽の矢が立つたのがマリア・ボレルだつた。

ボレル厩舎に移り、7月にインディアナダウンズの条件戦で戦列に戻つたランハッピーは、そこから3連勝でサラトガのG1キングスビショップSを制覇。続くG1スクリクスSも勝つて臨んだG1BCスプリントを、ランハッピーはトラックレコードで制し、全米短距離界の頂点に立つたのだった。

ところが、マリア・ボレルのシンデレラ物語には驚愕の第2幕が用意されていた。BC翌日、馬の脚に疲れが見えることをから」と言い、実際にそうしたことがあるという、いささか変わつた行動をとることでも知られた馬主だつた。

実弟がギャラリー・ファーニチャーリーの従業員ローラ・ウォーラースさんと結婚し、義理の妹になつたローラさんが長い乗馬歴を誇ることを知ると、「君の目で選んだ馬を1頭買つてくれ」と言つて13年のG1キンランド・セプテンバー・セールに送り出し、20万ドルで購買したのがランハッピーだ。のみならず、ローラさんに調教師免許をさせ、ウォーラース厩舎所属馬と